

ガボン共和国月報（2015年6月）

2015年6月号

在ガボン日本国大使館

主な出来事

【内政】

- 野党の活動再開：野党による市民との対話
- 野党指導者（元首相）によるジャン・ピン前AU委員長支持表明
- 野党UPLによるジャン・ピン氏支持表明

【外政】

- モハメッド6世モロッコ国王によるガボン訪問
- オナ・オンド首相による欧州訪問
- ボンゴ大統領による仏訪問
- 日ガボン協力：青年海外協力隊派遣10周年記念式典開催

【経済】

- 仏エラメット・グループ：マンガン加工工場の本格稼働
- ガボンによるユーロ債5億ドル発行

【内政】

1 政府与党PDG幹事長のインタビュー

2日、ブクビPDG幹事長のインタビューがガボン・ユニオン紙に掲載され、党内のベテラン及び若手の間に政策や党運営に関する意見の相違が見受けられ、党内が結束していない事実が明らかになった。また、同世代の党员の間においても、リーダーシップを巡る争いが生じている旨報じられている。（4日付UN, GR）

2 ガボン政府による不払い問題

ガボン政府による度重なる不払いによって業者は納品を停止し、各省庁において事務用品（机、椅子及び紙・ボールペン等の筆記具）が不足し、公務遂行に支障をきたしている。（3日付GR）

3 教員によるストライキ

4日、リーブルビル・オウエンド地区教員組合に所属する教員は、2014年第4四半期の特別手当の支払いを政府に対して要求するため、ストライキに入った。（6日付UN）

4 野党による市民との対話

6日、国民連合（UN）は、政権交代に向けたロードマップを策定するため、一般市民との意見交換の場として「市民フォーラム」を首都リーブルビル市内で開催した。野党連合「野党統一戦線」（FOPA）の各指導者を始め、大学教員及びNGO関係者他多数野党支持者が参集し、次期大統領選挙における透明性確保の手段や同選挙における国家の役割等につき活発な議論を行った。また、ミボトUN代表は、現行選挙システムでは選挙の透明性が確保されておらず、現時点では、UNは来年の大統領選挙に参加しない、については、

選挙に係る憲法及び法規定の改正に向け取組みを行っていく旨述べた。(8日付UN)

5 野党PSDの大統領選挙に対する見方

6日、マガンガ・ムサウ「社会民主党」(PSD)代表は、党本部開所式に出席し、野党は、統一候補を任命・発表する前に、大統領選挙の透明性、民主性及び信頼性を追求しなければならない旨述べた。また、同代表は、現行の選挙システムは現職大統領再選に非常に有利となっているところ、野党は、右を是正するため、大統領選挙の2回投票制度の復活及び選挙区の再編等に向け、一丸となって選挙法の改正に尽力しなければならない旨強調した。(6日付GR)

6 野党指導者(元首相)によるジャン・ピン氏支持表明

13日、ジャン・エイエゲ・ンドンUN副代表(オマール・ボンゴ前大統領時代の首相)は、当地商工会議所において集会を開催し、野党幹部として初めて、FOPA幹部及び支持者に対して、ジャン・ピン前AU委員長を野党統一候補として支持するよう働きかけた。(13-14日付UN)

7 野党UPLによるジャン・ピン氏支持表明

13日、野党連合FOPAに属する「進歩自由連合」(UPL)のアムゲ・ンバ代表は、首都リーブルビル市内で開催した党集会において、2016年の大統領選挙における政権交代に向け、4月に死去したアンドレ・ンバ・オバムUN幹事長を継ぎ、野党の結束を図るリーダーが不可欠であり、ジャン・ピン前AU委員長が野党リーダーに最も適任であると判断したUPLは、同氏を野党統一候補として支持する旨発表した。(13-14日付UN)

8 教員労働組合の政府に対する給与・手当支払い要求

16日、労働組合連合「ディナミック・ユニテール」の支援を受けている教員労働組合「Conasysed」の教員は、特別手当の支払い及び給与受給券の発行を求めて国民教育省に詰めかけ、警官隊との間で緊張が高まる場面が見受けられた。(16日付GR)

【外交】

1 ガボン・世銀協力

2日、ガボン・エネルギー大臣は世銀当地代表と会談し、同機関との間で借款供与について現在交渉中の「地方における基礎サービスへのアクセス及び供給能力の向上」計画に関して意見交換を行った。(3日付UN及びGR)

2 モハメッド6世モロッコ国王によるガボン訪問

モハメッド6世モロッコ国王にとって3度目のサブ・サハラ諸国(セネガル、ギニア・ビサウ、コートジボワール)歴訪は、ガボンが最終訪問地となった。今次ガボン訪問について、駐ガボン・モロッコ大使がプレスのインタビューに対して、「二国間に存在する特別な関係を新たに証明するもの」と形容する等、南南協力の模範ともいえるガボン・モロッコ関係は極めて良好に推移している。今次訪問の機会に二国間で署名された保健、経済及び社会分野の協定を通じて、両国首脳間の緊密な関係に象徴される良好な二国間関係の更なる強化が期待されている(9日付UN)。また、12日、同国王は、「持続可能な開発のた

めのモハメッド6世財団」を通じて、医薬品総量10トン及び医療機器をオマール・ボンゴ・オンディンバ軍病院及び保健サービス訓練校に対して供与した（15日付UN）。

3 オナ・オンド首相による欧州訪問

6-11日、オナ・オンド首相は、伊、タジキスタン及び仏を訪問した。同首相は、伊で開催された第39回国連食糧農業機関（FAO）総会に出席し、タジキスタンでは水に関する今後10年間の行動計画実施に係るハイレベル会合、仏では複数のファンドが共催した経済会合に出席した。（17日付UN、GR）

4 ガボン・カメルーン関係

8日、ボンゴ大統領は、ビヤ・カメルーン大統領特使として来訪した水・エネルギー大臣の表敬を受け、ガボンが5月から議長国を務める中部アフリカ諸国経済共同体（ECCAS/CEEAC）及びボコ・ハラム対策につき意見交換を行った。（9日付UN）

5 第15回世界通信規制シンポジウムの開催

9-11日、IT及び通信分野の官民専門家が首都リーブルビルに集まり、「デジタル潜在性を具現化する優遇措置」をメインテーマとして、モバイル決済、通信網共有モデル、税制及びデジタル経済等につき意見交換を行った。最終日には、デジタル化促進に向け、先進国、新興国及び途上国の間で、グッドプラクティスに関する一連のガイドラインが採択された。（12日付UN）

6 ボンゴ大統領による仏訪問

15日、オランダ仏大統領の招待を受け、アリ・ボンゴ大統領は、パリ郊外で開催された第51回航空・宇宙国際見本市に出席し、航空機のデモンストレーション及びパビリオンを見学した。また、今次訪問機会に、同大統領はヴァルス首相及びル・ドリアン国防相と会談を行い、安全保障、経済及び地球温暖化問題につき意見を交わした。（16日付UN、PR）

7 日ガボン協力：青年海外協力隊派遣10周年記念式典開催

26日、日本の対ガボン青年海外協力隊派遣10周年を記念する式典がリーブルビルで開催された。2005年の派遣開始以降、現在までに、延べ122名の日本人隊員が首都及び地方都市で活動を行い、ガボンの経済・社会発展及びガボン国民の福祉増進に貢献した。なお、現在18名がリーブルビル、ランバレネ、フランスビル、ムイラ、チバンガ及びオイエムで活動を行っており、新たに9名が近々着任する予定。（26日付GR）

【経済】

1 仏エラメット・グループ：マンガン加工工場の本格稼働

12日、ボンゴ大統領はモアンダ（オートグエ州）において仏エラメット・グループが新規建設したマンガン加工工場の本格稼働式典に出席した。総面積50ヘクタールに及ぶ同工場は、総額1,600億CFAフラン（2億4300万ユーロ相当）で建設され、432人の雇用を創出している。同工場は、年間、金属マンガン2万トン及びシリコンマンガン6万5000トンを生産する予定。（13日付UN、15日付GR）

2 ガボンによるユーロ債5億ドル発行

2015年修正予算に関する国会の承認を受け、ガボン政府は総額5億ドルに上るユーロ債を10年金利6.95%で発行した。同債券によって得た資金は、エネルギー、水、教育及び保健分野の優先インフラプロジェクトの実施に当てられる予定。(GR)

出典:PR(大統領府公式HP),UN(ユニオン紙),GM(ガボン・マタン紙),GN(ガボン・ニュース電子版ニュース),AFP,GA(Gabonactu.com),GR(ガボン・レビュー電子版ニュース),LG(ル・ガボン電子版ニュース),GE(ガボン・エコ電子版ニュース)